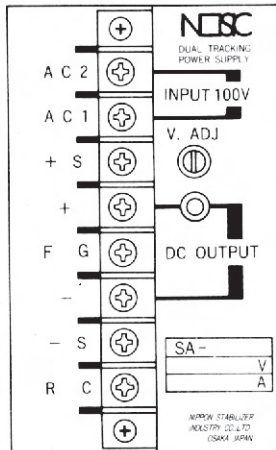


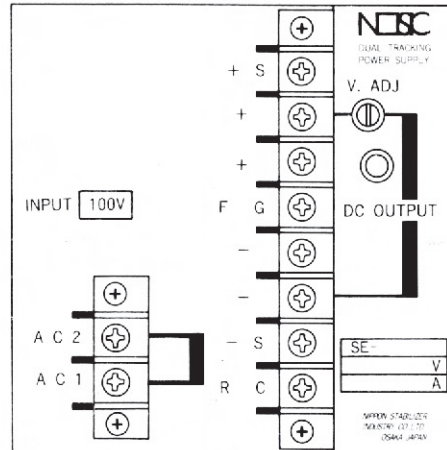
# EX,

# EXPLANATION

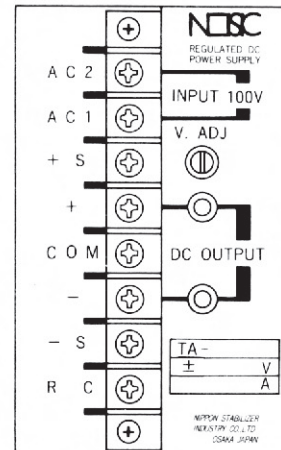
### ■ パーレックI シリーズ



### ■ パーレックI、SEタイプ



### ■ パーレックIIシリーズ



### 1 AC入力

AC2 } AC入力端子です、入力電源を接続します。  
AC1 }

### 2 出力端子

+ S リモートセンシング端子です。通常はショートバーにて+出力へ接続されています。

+ } DC出力端子です。出力はフローティングになっておりますので+接地、-接地いずれでも使用可能です。

+ } DC出力端子です。出力はフローティングになっております。  
COM }

- S リモートセンシング端子です。通常はショートバーにて-出力へ接続されています。

RC リモートコントロール端子です。通常はオープンにしておいて下さい。

FG フレームグラウンドです。筒体に接続されています。

V・ADJ 出力電圧調整ボリュームです。±5%の範囲で使用可能です。但し、パーレックIIシリーズは+、-同時同調です。(時計方向に回すと電圧が高くなります)

### 3 LED 出力表示ランプです。

### 4 +S -S RC端子の使用法

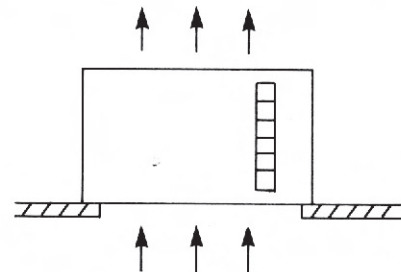
リモートセンシングは出力ケーブルの電圧降下の補償が必要な場合に使用します。

付属のショートバーをはずし、結線図の様に接続して下さい。センシングの線は0.3mm<sup>2</sup>程度のもので充分ですが、外来ノイズの影響をさけるためできるだけシールド線を使用し外皮はFGに接続して下さい。出力ケーブルは充分余裕のあるものを使用し、長さは5m以内として下さい。

リモートコントロール端子は接点信号又はトランジスタ、フォトカプラ等によりDC出力をON-OFFするためのものです。接点信号メイクにてDC出力がOFFとなります。

●結線図を参照下さい。又、使用上の注意もよくお読み下さい。

### 5 装置実装上のご注意

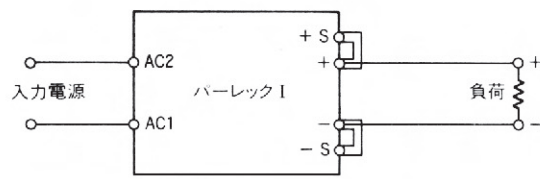


シリーズレギュレーターは方式上ある程度の発熱が予想されますので通風には充分ご注意下さい。パーレックシリーズは原則として図の様に底面より空気を取り入れる構造になっておりますので実装の際は充分ご検討下さる様お願いします。

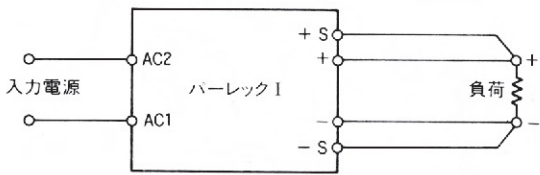
パーレック I シリーズ

6 標準結線図

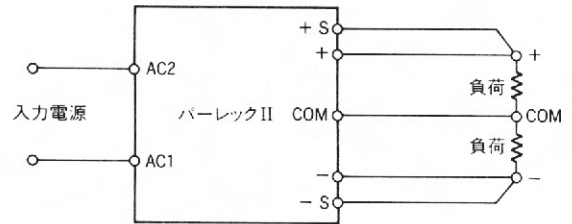
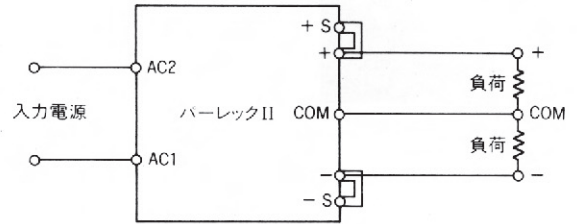
● リモートセンシング不要の場合



● リモートセンシング使用の場合

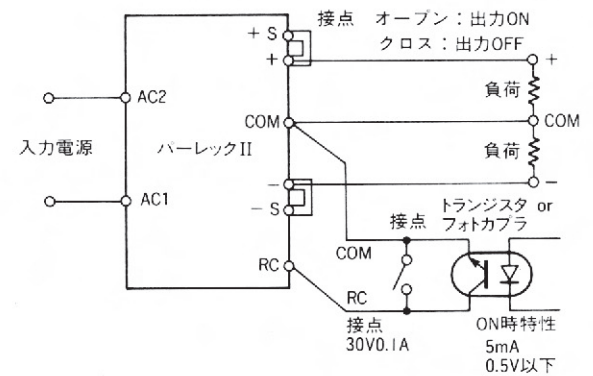
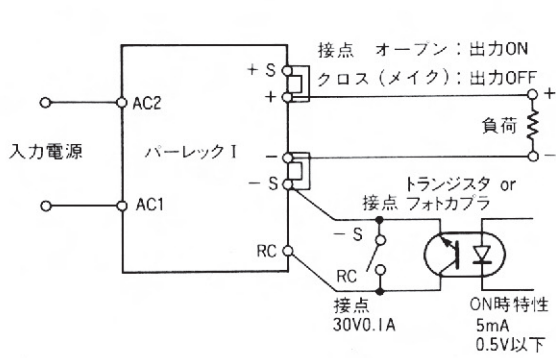


パーレック II シリーズ

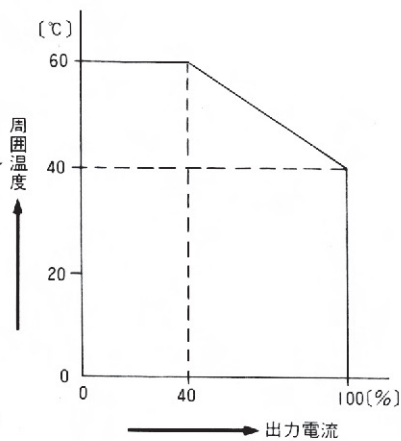


7 リモートコントロール(RC)結線図

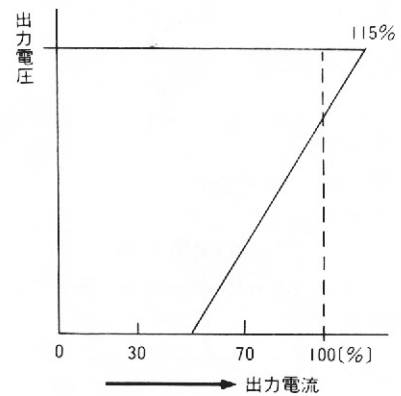
外部接点信号により出力をON-OFFする機能が付いています。



8 温度ディレーティング表



9 標準過電流保護特性



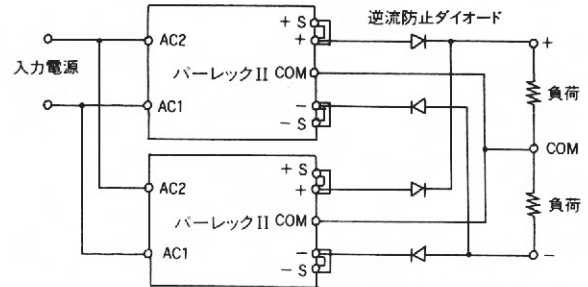
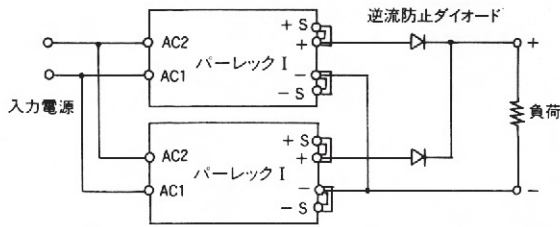
パーレック I シリーズ

パーレック II シリーズ

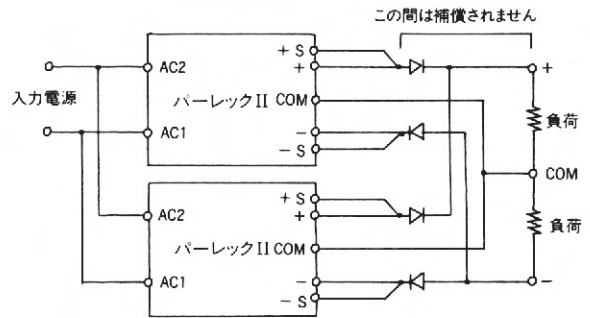
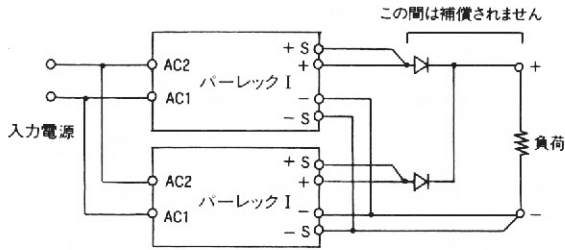
10 並列運転(パラ運転)結線図

等しい出力電圧の電源ユニットを下図の様に結線する事により各々の出力電流の和の出力電流が得られます。ただしこの場合逆流防止ダイオードが必要です

● リモートセンシング不要の場合



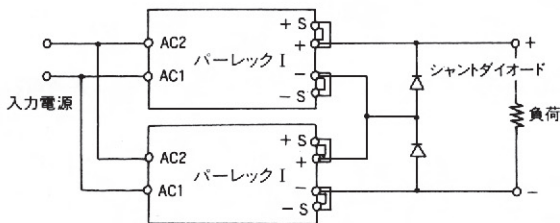
● リモートセンシング使用の場合



11 直列運転(シリーズ運転)結線図

等しい出力電流の電源ユニットを下図の様に結線する事により各々の出力電圧の和の出力電圧が得られます。

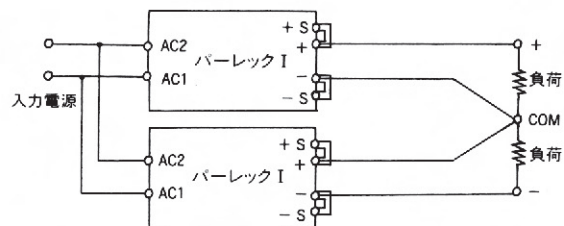
● リモートセンシング不要の場合



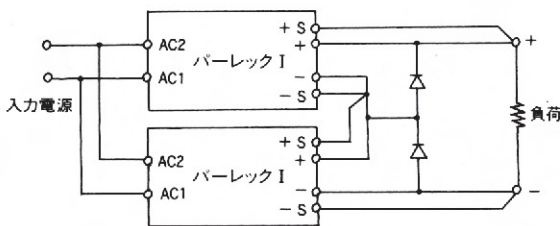
12 両極性結線図

電源ユニットを下図の様に結線する事により両極性の電源ユニットとして使用できます。

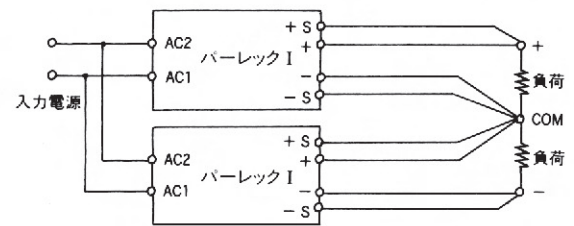
● リモートセンシング不要の場合



● リモートセンシング使用の場合



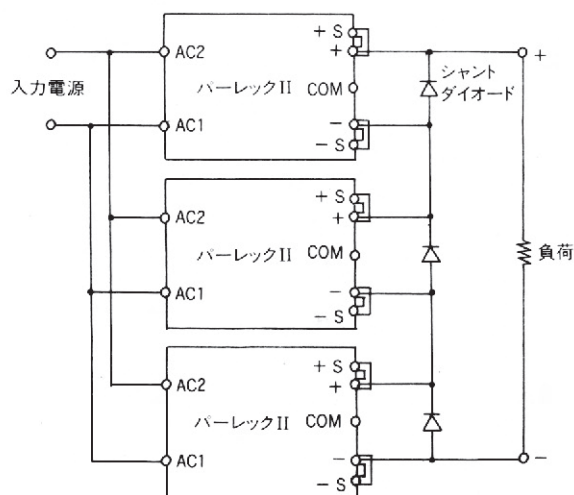
● リモートセンシング使用の場合



注) 電源ユニットは信頼性、経済性の点から極力電流値を揃えて使用して下さい。やむをえず電流値の異なる場合は小さな電流値しか使用できません。

### 13 パーレックIIシリーズの複数接続

複数の電源ユニットを下図の様に直列に結線する事により比較的簡単に高電圧を得る事ができます。



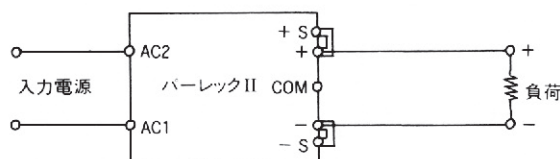
例：パーレックII出力電圧±24Vの同じユニット3台で出力電圧約150Vを得る事ができます。

- 注1) リモートセンシングが必要な場合は11ページを参照して下さい。  
 注2) 高電圧の両極性電源が必要な場合の結線は12ページを参照して下さい。

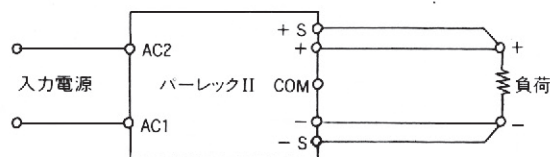
### 14 パーレックIIシリーズで2倍の出力電圧

1台の電源ユニットにて2倍の出力電圧の単出力電源として使用できます。

リモートセンシング不要の場合



リモートセンシング使用の場合



### 15 使用上のご注意

- 電源ユニットのDC出力は必ず+-COM端子に接続して下さい。絶対に+S-Sの端子からの接続はさけて下さい、ここからの接続は、電源ユニット内部の部品を焼損する場合があります。
- 電源ユニットに接続する電線は許容電流に充分余裕のあるものを使用し端末は圧着端子等で確実に端子へ接続して下さい。
- リモートセンシングに使用する電線はAWG # 22 (0.3mm<sup>2</sup>)程度のもの、出来ればシールド線の使用をお奨めします。
- 出力電線及びリモートセンシングの電線の長さは5m以内でご利用下さい。又、リモートセンシングによる補償電圧は合計0.5V以下として下さい。
- 電源ユニットを複数まとめて設置する場合は各電源ユニットとの間隔を20mm以上離すと共に冷却が充分行われる様空気の対流にご注意下さい。
- 電源ユニットの周囲温度が45℃を超える場合には別紙温度デレーティング表により出力電流を下げして下さい。
- 電源ユニットの並列、直列運転時に使用する逆流防止ダイオード及びシャントダイオードは出力電圧、出力電流に充分耐えるものを使用して下さい。
- 出力電流値によっては上記ダイオードに放熱器を設けて冷却の必要があります。ダイオードは出来るだけ電圧降下の低いものを使用した方が有利です。
- 電源ユニットを直列接続した場合の最大出力電圧は250V以下として下さい。
- 原則として電源ユニットを複数並列又は直列運転する場合は各電源ユニットの入力電源は同時に投入、切断を行って下さい。
- その他不明な点がございましたら技術資料ならびに共通取扱説明書をご覧ください。

本カタログの記載内容は改良、その他により予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。